2026年度事業計画

社会福祉法人さくら園

基本理念

さくら園は利用者一人ひとりを大切にし、利用者自らが自分らしく自立した生活を送れるよう「保護者」「地域」「ボランティア」とのつながりを深め、ともに学び、ともに歩みます。

運営方針

(1) 利用者それぞれの個性や能力に合わせた作業支援、生活支援を行い地域で自分らしく自立した生活を送ることを支援します。
(2) 利用者の自主性を大切にし、楽しく生きがいのある生活を送ることを支援します。
(3) 開放的で明るい施設の運営と、サービスの充実をはかります。
(4) 保護者・地域・ボランティアと連携し利用者の社会参加を促進します。

1　はじめに

(1) 時代の変化と直面する課題

現在、我が国は少子高齢化と人口減少という深刻な構造的課題に直面しています。上越地域においても、労働人口の減少やサービス利用者の減少、職員の確保難など、経営を取り巻く環境は厳しさを増しています。 加えて、昨今の円安やエネルギー価格の高騰、人件費の上昇による物価高は、法人運営のコストを押し上げるだけでなく、利用者の作業工賃の増収を阻む大きな障壁となっています。

(2) 「利用者ファースト」から「利用者ハッピー」への転換

このような不透明な時代だからこそ、さくら園は従来の支援の枠組みを一段階引き上げます。これまでの「利用者ファースト」という視点から、さらに踏み込み、一人ひとりの自己実現と幸福を追求する「利用者ハッピー」の実現を目指します。 利用者一人一人に、「この工房に来てよかった」「作業や日中活動が楽しみだ」「工房に行くと自信が持てる」と感じてもらえるようなサービス提供を目指します。この「利用者ハッピー」を法人の揺るぎない特色として打ち出し、質の高い支援内容を構築することで、就労支援事業等の競争激化の中でも、選ばれる施設としての価値を確立できると考えます。

(3) 人材育成と処遇改善の推進

法人の価値を形作るのは、現場を支える職員一人ひとりです。新入職員が早期に職場に定着し、プロフェッショナルとして活躍できるよう、OJT による人材育成を推進します。 また、職員の処遇改善については、上位の処遇改善加算の取得を継続するとともに、公正な人事考課に基づいた適正な評価を行い、民間企業の給与水準に比肩する待遇の実現に向けて、段階的な改善を図っていきます。

(4) 情報発信の強化と地域連携

さくら園の特色ある支援や「利用者ハッピー」への取り組みを、広く社会に周知していくことが不可欠です。ソーシャルメディアを戦略的に活用し、透明性の高い情報発信を行うことで、新規利用者の確保と地域社会からの信頼獲得に努めます。

結びに

コスト高騰や担い手不足といった逆風の中でも、私たちは歩みを止めることなく、創意工夫と情熱を持って、利用者・職員・地域が共に幸福を分かち合える法人運営にチャレンジしていきます。

2　事業実施内容

(1) 工房の運営体制

2026 年度は、特別支援学校からの新規利用者 9 名を迎え、総勢 232 名の利用者(放課後等デイサービスを除く)に対し、職員 92 名(常勤 50 名、パート 42 名)の体制で支援を展開します。

本年度は「就労移行支援の再編」と「放課後等デイサービスの休止」という大きな転換期となり

ます。各工房の特色を最大限に活かした情報発信を行い、地域における新規利用者の確保に積極的に取り組みます。

- 就労移行支援の１本化：つばき工房に機能を統合し、新たに「ジョブスタ」として始動します。フラワーセンター内に訓練拠点を確保し、実践的な就労プログラムを開発・実施します。
- 放課後等デイサービスの休止：近隣自治体（糸魚川・妙高）を含めた同種施設の増加に伴う利用率低下を鑑み、経営資源を他事業へ集中させるため、2026 年９月末をもって休止とします。

ア　工房の事業別　定員・契約数一覧

事業巣別	拠点	定員	契約数
就労移行支援	ジョブスタ（つばき工房）	6	3
就労継続支援型Ｂ型	さくら工房	34	41
	つばき工房	24	29
	北さくら工房	32	38
自立訓練（生活）	さくら工房	3	3
	北さくら工房	3	1
就労定着支援	つばき工房	—	4
生活介護	南さくら工房	35	65
	居多さくら工房	26	47
放課後等デイサービス	南さくら工房	5	10

イ　工房の重点目標

① さくら工房：【意欲】と【地域】の芽を育てる

- ステップアップ支援

  働く意欲と効率を高める新プログラムを導入し、「やりがいのある Ｂ 型事業所」としての魅力を高めます。

- 地域との花づくり

  小中学校への植栽やシクラメン即売会を通じ、花を通じて地域に笑顔を届けます。

② つばき工房：【就職】への挑戦と【健康】な体づくり

- ジョブスタの挑戦

  就労移行支援事業「ジョブスタ」から、１人以上の一般企業就職を確実に実現します。

- ノリノリ体操

  「明るく・楽しく・血流アップ！」を合言葉に、全員体操で転倒を防ぎ、元気

に動ける体を維持します。

③ 北さくら工房:【稼ぐ力】と【社会ルール】の習得

- 工賃アップの追求

  施設外就労の開拓に力を入れ、平均工賃 15,000 円以上を目指します。

- 自立へのステップ

  「スマイル」「じゃんぷ」の活動を通じ、個性を伸ばしながら、社会で必要なマナーとルールを身につけます。

- 就労支援

  B 型からも就職者の実現を目指します。

④ 南さくら工房:【個性】の開花と【丁寧】なバトンタッチ

- 得意を伸ばす支援

  一人ひとりの「好き」や「得意」を宝物とし、その力が最大限に発揮できる環境を整えます。

- 南さくらアート展

  表現活動の成果を地域へ発信し、感動を共有します。

- 誠実な引き継ぎ

  放課後等デイサービスの休止に向け、利用者と家族が安心して次の一歩を踏み出せるよう、丁寧に引き継ぎを行います。

⑤ 居多さくら工房:【安全】な仕事づくりと【地域】との絆

- やる気を引き出す新たな仕事のカタチ

  安全・安心に取り組める作業や彩りある活動で「できた！」「もっとやりたい！」「楽しい！」を増やします。

- クリーン活動

  町内会と手を取り合った清掃活動を通じ、地域の一員としての絆を深めます。

(2) グループホーム・ショートステイの運営体制

グループホーム8ヶ所、ショートステイ3床の運営を常勤職員6名及び世話人を含むパート職員 17 名、宿日直専門職員 20 名の体制で実施します。近年、施設の老朽化、利用者の高齢化・障害の重度化による通院支援や生活支援の増加が課題となっているため、さくらホーム五智をはじめとする老朽施設の建て替え、再編を検討し安全、安心な運営に努めます。

ア 定員、契約数一覧

	定員	契約数	備考
さくらホームさくらの家	11	10	
さくらホームつばきの家	10	10	

さくらホーム五智	5	5	ショート1床
さくらホーム寺町	5	5	
さくらホーム朋	6	6	
さくらホーム陽	5	4	ショート1床
さくらホーム直	6	6	
さくらホーム居多	5	5	ショート1床
計	53	51	

イ さくらホームの重点目標

① グループホーム: 目標 【安心安全な暮らし】と【次へのステップ】

- 「おうち時間」の充実

  入居者の高齢化(平均年齢52歳超)に伴い、安心安全な暮らしになるよう丁寧な生活支援をします。また、休日には「ほっと一息つけるような楽しみ」を計画します。

- 「介護保険への移行」支援

  介護保険へのスムーズな移行を手厚くサポートします。

② ショートステイ:目標 【セーフティーネット】と【レスパイト、体験】

- 緊急時の即応体制

  突発的な困りごとによる利用希望に対し、地域を支えるセーフティーネットとして、ためらうことなく迅速に受け入れます。

- 在宅生活の支え

  家族のレスパイト(休息)や将来の自立に向けた宿泊体験の場として、安心できる環境を提供します。

(3) さくら園障がい者支援室の運営

ア 障がい者就業・生活支援センターさくら

新潟労働局及び新潟県からの委託事業として、上越圏域(上越市・糸魚川市・妙高市)の障がい者雇用を包括的に支えます。「就職を目指す人・就業中の人」「雇用企業・団体」「支援関係機関」の三者に対し、専門的な知見から助言を行います。

委託事業に加え、上越市委託事業のジョブサポーター、法人独自のジョブコーチを配置した計8名体制で、就職促進から職場定着までをシームレスに支援します。

目標 【地域雇用を支えるハブ機能の強化】

- 労働局、自治体、企業と強固に連携し、一人でも多くの障がい者が地域社会で長く働き続けられる「安心のネットワーク」を構築します。

イ 相談センターさくら

相談支援専門員4名の体制で、障がい者・障がい児が最適な福祉サービスを利用できるよう、一人ひとりに寄り添ったマネジメントを行います。

利用者それぞれの状況に応じた「サービス等利用計画」を作成し、福祉サービスの適切な利用調整を行います。

過不足のない最適なサービス提供が維持されるよう、適切かつ定期的なモニタリングを実施し、支援の質を担保します。

目標 【多職種連携による課題解決】

- ネットワークの強化

  医療、教育、福祉などの多職種・関係機関との連携をさらに深めます。

- チーム支援の推進

  利用者一人ひとりが抱える課題に対し、地域全体で支えるチーム体制を構築し、迅速な解決を図ります。

(4) 【安全・安心・信頼】の取り組み

利用者が安全に安心して過ごし、家族・地域から信頼される運営体制の通り組み

- 安全・危機管理
  - BCP(事業継続計画): 策定と運用による災害時対応力の向上。
  - 防災・防犯: 避難訓練、防犯訓練、施設内外の安全点検の実施。
  - 福祉避難所: 上越市との契約継続、有事の際の協力体制維持。
- リスクマネジメントと苦情解決
  - 事故防止: ヒヤリハット・事故報告・苦情の検証と再発防止。
  - 苦情解決体制: 責任者(所長・次長)による迅速な対応と第三者委員との連携。
- 健康管理と送迎サービス
  - 健康維持: 利用者健診(年1回)、感染症予防対策の徹底。
  - 安定した移動: 計7台の車両による約100名の送迎、及び重度者への個別送迎。

(5) 【尊厳・権利擁護】(質の高い支援)の取り組み

利用者の意思を尊重し、差別のない「自分らしい暮らし」を支えるための取り組み

- 虐待・ハラスメント防止の徹底
  - 人権(権利)擁護委員会: 年6回の開催と職員研修の実施。
  - 自己点検: チェックリストによる振り返りと、不適切言動を見逃さない組織文化。
- 権利擁護の具体的な推進
  - 意思決定支援: 利用者主体の方法検討
  - 身体拘束廃止の推進。
  - 差別解消: ポスター掲示等による啓発活動。

- コンプライアンス
    - 内部監査: 法人内部監査による適正運営の担保。

(6) 【活力・発展・地域】(未来への投資と貢献)の取り組み

職員の成長を促進し、地域と共に歩む法人づくり

- 人材育成と労働環境の改善
    - 能力向上: OJT(現場教育)の推進、オンライン・集合研修の活用。
    - 職場環境: ストレスチェック(年1回)の実施、メンタルヘルス向上。
- 中長期的な事業発展
    - 施設整備: 老朽化グループホームの整備再編(2031年目標)、中長期計画の見直し(2026年度中)。
    - 設備更新: 助成金を活用した特殊浴槽・車椅子車両の整備。
- 地域交流・社会貢献(公益的取組み)
    - 地域とのつながり: 運営協議会の開催、子ども食堂支援、備品の無償貸出。
    - 情報発信: ホームページ管理、機関紙(年1回)・工房だより(毎月)の発行。
    - 次世代育成: 実習生の受け入れ、小中学校への出前授業の実施。
    - 災害対策:福祉避難所の設置(さくら工房、北さくら工房、南さくら工房、居多さくら工房、さくらホーム陽)